

第7期 豊島区生涯学習推進協議会 これまでの議論の流れ

第1回本委員会 令和4年12月12日

- 今期のテーマについて「生涯学習推進ビジョンの評価の方向性について」
- 中上副会長、齋藤委員、高井会長の視点から、様々な評価方法について。
 - ・評価は学習者の自己評価、学習者からの教師への評価、教師自身のふりかえり、専門的な立場からの評価と小さな評価や大きな評価を混ぜながら、実施している。
 - ・自分の変化を時点を定めて長期的な視点で書かせることでコンピテンシーの変化を見る。
 - ・社会教育においては、学習者自身が自らの学びを評価する。学習の主体は学習者自身。社会教育の学びは誰も点数をつけない。自分自身が評価できる力をつけていく。
 - ・中長期的、アウトプットアウトカムを認識しておいた方がよい。

【第1回小委員会】 令和5年3月8日

- 評価の軸を明確にしていく
 - ・何を評価するのか→『豊島区生涯学習推進ビジョン』P16～18 施策の体系図1、2、3にある、11の柱
 - ・誰が評価するのか→マナビト生が学びの一環として講座に参加し評価してはどうか。

第2回本委員会 令和5年3月27日

- 小委員会開催報告
- 評価について、区・地域文化創造館・みらい館大明から現状報告
 - ・区は事業目的や目標を再認識し、改善につなげるため行政評価を実施し公表。
 - ・地域文化創造館エリアガイドボランティア事業は、養成講座実施後に何人エリアガイド団体に所属したか、参加者の反応などが評価となる。
 - ・みらい館大明若者学びあい事業は、若者が地域とつながり接点ができること、事例を冊子などで表現することを評価としている。
- 今後については、学びの一環としてマナビト生等と評価を実践してみる。

【第2回小委員会】 令和5年7月10日

- 評価を測るには
 - ・2つの方法で評価する方法を本委員会に提案したい。
 - ①生涯学習推進ビジョンの取組1～3の6つの項目について当てはまる事例をあげ、それについて書いてもらう。
 - ②マナビト生の学びとして、講座へ行き、評価を実践してみる。
- 各委員に『豊島区生涯学習推進ビジョン』第2章、第3章から、何をどう測ればよいのかと、考えられる指標を測るにはどのような質問事項がよいのかを次の本委員会までに箇条書きで書き出してもらうよう依頼。

第3回本委員会 令和5年7月27日

○小委員会開催報告

○評価についての考え方

- ・各委員が提出した「評価についての考え方」をもとに、議論を進めた。

- 今回の議論を踏まえ、定量評価、定性評価の軸について、マナビト生にも協力してもらい、いろいろな視点をもとに小委員会でたたき台を作成し、委員へ意見を聞きたい。

【第3回小委員会】 令和5年11月22日

○事業評価について

- ・実施した結果(アウトプット)…参加者数、講座数など数字の実績での評価

- ・成果評価(アウトカム)…短期的には、講座終了時のアンケートでの意識変容を図る。

中長期的には、参加者の意識や行動の変化をインタビュー形式で探る。

- ・アウトプットについては数字があるので、アウトカムについて学習を継続している3人のマナビト生を対象に実施したい。

- ・インタビューのキーワードとしては、他者との学びあい、地域に必要とされる活動、つながり、新たな価値、生涯学習推進ビジョンにある体系図(P16～18)

○今後の進め方

- ・インタビューを1月に実施し、インタビューから評価の視点を明らかにしていく。

→各委員に小委員会のまとめを送付し、「評価についての進め方」の意見を求めた。(12月1日メール)

【第4回小委員会】 令和6年1月12日

○インタビューの実施